

# 2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 3 月 30 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	川崎 知己
研究課題	スクールカーストについての教員の介入等と児童生徒の乗り越え方について				
研究キーワード	スクールカースト 教員の指導 教員の介入	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	10. 人や国の不平等をなくそう	3. すべての人に健康と福祉を	16. 平和と公正をすべての人に	

## 1. 研究成果の概要

本研究は、学級内のグループ間に地位格差が生じる現象、および「スクールカースト」現象について大学生を対象とした回顧的調査により、児童生徒の受け止め方、それを乗り越えていくための要因と、教員がこの現象にどのような姿勢・態度、指導、介入をすることが重要であるかを探索的に明らかにしていくことであった。2021 年度内に、大学生で、小学校、中学校、高等学校期間に、「スクールカースト」の問題について、どこかの段階で、また、いずれかの「ヒエラルキー」に位置し、その経験をしている学生 15 人を対象として対面及び Microsoft Teams または Zoom による遠隔によって、半構造化面接を行った。その面接記録（テープの逐語録）をテキスト化し、それをデータとした。M-GTA による分析にあたり、データに根ざした分析が可能になるように、分析テーマを『スクールカースト』の発生及び未然防止・低減・解決等の各プロセスにおける要因」と設定した。分析テーマを設定した後、データの関連箇所に着目し、それを一つの具体例(ヴァリエーション)とし、かつ、他の類似具体例をも説明できると考えられる説明概念を生成した。結果は、『スクールカースト』の発生及び未然防止・低減・解決等の各プロセスにおける要因」のデータの範囲を集められた 554 事例のデータに限定して、その中で「理論的飽和化」を図った。また、分析ワークシートを用いて概念を生成したところ、86 の概念が生成され、そこから 30 のサブカテゴリー、さらには 11 の上位カテゴリーが生成された。

今後、複数の概念の関係からなるカテゴリーを生成し、カテゴリー相互の関係から分析結果をまとめ、その概要をストーリーラインとして簡潔に文章化し、さらに結果図を作成し、「スクールカースト」の児童生徒の受け止め方、それを乗り越えていくための要因と、教員がこの現象にどのような姿勢・態度、指導、介入をすることが重要であるかを明らかにしていく

## 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

### 【著書・論文（査読なし）】

- 学びのつまづき感から克服に至るプロセスと各要因について —大学生の回顧的インタビューを基にM-GTAを用いた質的研究—, 川崎 知己, 単著, 千葉商大紀要 第 59 巻第 2 号 71 頁—93 頁 2021 年 11 月
- いじめ予防スキルアップガイド: エビデンスに基づく安心・安全な学校づくりの実践,  
飯田順子 (著, 編集), 杉本希映 (著, 編集), 青山郁子 (著, 編集), 遠藤寛子 (著, 編集), 川崎知己 (著) 他 (共著) 2021 年 4 月 金子書房 第 5 章 学校管理職によるシステムづくり —リーダーシップ機能を発揮した学校経営の実現—
- 新・教職課程演習 第 9 巻 教育相談 飯田順子/編著 石田弓/編著, 川崎知己 (著) 他 (共著) 2021 年 11 月 共同出版 第 8 章 校内での協力体制

**【学会発表等】**

○ 学習のつまづき感から克服に至るプロセスについての検討 ―現大学生の回顧的インタビューを基にM-GTAを用いた質的研究― (単著) 日本学校心理学会第23回福岡大会 2021年9月 オンライン (オンデマンド視聴とリアルタイム映像配信)

3. 主な経費

心理統計解析を行うための統計ソフトを購入したほか、パソコン周辺機器等に使用した。

4. その他の特筆すべき事項 (表彰, 研究資金の受入状況等)

**【科学研究費】**

・基盤研究 (B) : 令和2年度～令和5年度, 分担, 課題名「子どもの強みに着目したメンタルヘルススクリーニングによる学校全体支援モデルの構築」(20H01758)

**【その他の活動】**

日本教育カウンセラー協会 評議員 (NPO 日本教育カウンセラー協会)

日本スクールカウンセリング推進協議会 研修委員 (一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会)